

【パラアスリート学校訪問事業への民間連携】

テーマ概要

児童生徒のパラスポーツへの関心向上や共生社会意識の醸成を目的として、市内小中学校においてパラアスリートによる講話・競技体験会を実施している。

事業の継続実施にあたっては、財源確保が課題となっていることから、民間企業との連携による協賛金やネーミングライツの導入に向け、効果的な連携手法や事業スキーム等に関するアイデアを募集します。

千葉市の課題

継続的な財源確保

- 単年度ごとの予算措置に依存しているため、事業の継続性が担保されず、計画的な事業実施が困難

情報発信力の不足

- 取組みの認知拡大に限界
- パラスポーツの魅力発信が限定的

想定する解決策

民間企業との連携強化

- 協賛金、ネーミングライツ導入
- 動画制作・SNS発信等の協力



今後の展開予想

短期

- 協賛企業ヒアリング実施
- 協賛メニュー整理
- モデル事業実施

中長期

- 学校訪問事業の安定運営
- 実施校数・競技拡大
- 動画配信等による波及展開

募集概要

担当部署	市民局スポーツ振興課
提案の提出期限・ 想定する事業実施時期	提案提出期限：令和8年9月25日 事業実施時期：令和9年 5月～令和10年1月
抱える問題点や課題	・ 学校訪問事業は好評いただいている一方、予算・人的リソースに限りがある ・ 単年度ごとの予算措置に依存しているため、事業の継続性が担保されず、計画的な事業実施が困難となっており、持続的な実施に向けた新たな資金スキームの構築が課題
想定する解決策	・ 企業協賛による事業費支援 ・ 学校訪問事業へのネーミングライツ導入
提案側の想定メリット (定量的な提供)	■可視化されるリーチ ・ 年間約3,000人（児童＋保護者）への直接接触 ・ 市公式媒体・SNS・動画配信による二次拡散 ■ブランド価値向上 ・ インクルーシブ教育支援企業としての認知獲得 ・ SDGs・E S G 評価への寄与 ■独自メリット ・ 教育現場における信頼性の高い露出 ・ 行政連携実績による信用力向上

検討経緯・これまでに実施したことがある施策等	・東京2020大会レガシーとして学校訪問事業を継続実施 ・現在は既存予算を活用した委託事業として事業を推進 【現在の実施体制】 ※以下業務を委託により実施 ・講師手配 ・学校との日程調整 ・会場設営 ・講師謝礼の支払い
提案企業に求める専門性	・スポンサー営業・広報ノウハウ ・ブランディング、ネーミングライツ設計 ・動画・SNS等を活用した情報発信力 ・教育CSRや地域貢献分野の知見
各部署が提供できるリソース等	・教育委員会との調整支援 ・学校ネットワーク ・市公式媒体による広報
事業実施にあたっての留意点、制約等	・学校教育現場のため、過度な広告色は制限が必要 ・政治・宗教・営利色の強い表現は不可
市の財政負担・今後の展開想定	・初期段階は市予算と民間協賛の併用を想定（提案内容を踏まえ、市と民間の役割分担・費用負担の範囲は協議により決定） ・将来的には協賛拡大による事業規模拡充を検討 ・学校訪問に加え、市民向け体験会や大会連携への発展可能性あり ・映像制作やデジタル配信等による波及展開も想定
参考情報・備考	